

第2回 次世代北信がんプロ合同市民公開講座 令和6年度福井大学県民公開講座 がん診療最前線 北信地区でつなぐ がん医療

第2回次世代北信がんプロ合同市民公開講座・福井大学県民公開講座「がん診療最前線」が11月4日、福井市のコートヤード・バイ・マリオット福井で開かれました。がんプロを構成する福井、石川、富山、長野の各大学の専門医らが「北信地区でつなぐがん医療」をテーマに講演。来場した約130人とオンラインの約90組が聴講し、がんプロの取り組みや、最前線の治療技術や地域をつなぐケアなどについて理解を深めました。

※「北信のシームレスながん医療を担う人材養成（次世代北信がんプロ）」は、北陸3県、長野県の6大学が連携し、がん専門医療者の育成を図るプロジェクトです。



[主催] 次世代北信がんプロ



[共催] 福井新聞社
[後援] 福井県、福井県医師会、福井県薬剤師会、福井県看護協会、福井県病院薬剤師会、福井県がん診療連携協議会
お問い合わせ: 福井大学医学部腫瘍病態治療学分野
〒910-1193 福井県永平寺町松岡下合目23-3
Tel.0776-61-8857 (平日9:00~16:00)

本公開講座の動画は、福井大学次世代北信がんプロのホームページから視聴可能ですので、ぜひご覧ください。
[期間限定: 令和7年3月31日まで] 視聴はコチラ! →



専門医マップはコチラ! →
次世代がんプロ福井

開会の言葉

福井大学 医学部長
藤枝 重治 先生



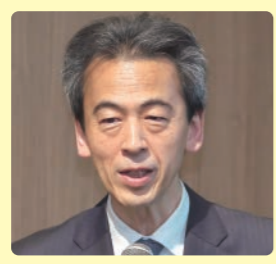
私は「はごろや鼻、のどのがんを扱っていますが、最近はある程度のがんであれば確実に治すことができるようになりまし



「がんプロ」は専門のがん医療従事者を育てる文部科学省の事業で、われわれ北信がんプロは2007年から4期連続で選出されています。今期は次世代北信がんプロとして「シームレスながん医療を担う人材養成」をテーマに、大学院生向けの「大学院正規課程コース」と、現場で働く医療人向けの「インテンシブコース」の二つの教育コースを開発しました。診断から治療、終末期ケアまで、他職種が力を合わせ、幅広い専門的知識を持った医療者を育成して

基調講演 「次世代北信がんプロの目指すもの」

福井大学医学部附属病院
がん診療推進センター センター長
廣野 靖夫 先生



「がんプロ」は専門のがん医療従事者を育てる文部科学省の事業で、われわれ北信がんプロは2007年から4期連続で選出されています。今期は次世代北信がんプロとして「シームレスながん医療を担う人材養成」をテーマに、大学院生向けの「大学院正規課程コース」と、現場で働く医療人向けの「インテンシブコース」の二つの教育コースを開発しました。診断から治療、終末期ケアまで、他職種が力を合わせ、幅広い専門的知識を持った医療者を育成して

「がんプロ」は専門のがん医療従事者を育てる文部科学省の事業で、われわれ北信がんプロは2007年から4期連続で選出されています。今期は次世代北信がんプロとして「シームレスながん医療を担う人材養成」をテーマに、大学院生向けの「大学院正規課程コース」と、現場で働く医療人向けの「インテンシブコース」の二つの教育コースを開発しました。診断から治療、終末期ケアまで、他職種が力を合わせ、幅広い専門的知識を持った医療者を育成して

最新のがん医療 1

司会 金沢医科大学 腫瘍内科学 教授
安本 和生 先生



「肺がん治療はここまですべて進んでいる!」
金沢大学 医薬保健研究域医学系 呼吸器内科学 教授
矢野 聖一 先生

肺がんは死亡者数が最も多いがん。最大の原因はたばこで、予防の基本は禁煙です。検診での早期発見も重要で、早期の治療は手術が基本です。肺がんの手術は患者さんにやさしく進化しており、ダウリンチなどのロボット手術は傷が小さく術後の痛みが少なく、放射線治療も、コンピュータで計算して、がんだけに放射線をたくさん当てられるよう進化しています。

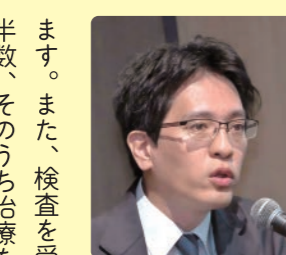


「大腸癌の予防、早期診断、治療の最前線」
福井大学 医学部 外科学 (一) 教授
五井 孝憲 先生

大腸がんはこの20年間で患者数が1.5倍に増え、罹患率はワースト1位。死亡者数は男女合計で2位、女性では1位です。40〜50歳から発症頻度が高まります。がんの99%は便が通る粘膜(大腸の壁の一番内側)、特に肛門から近い部位で多く発症するため、便に付着する出血(赤色)の確認は非常に大事です。早期発見には、まず検診。血縁関係者に大腸がんの方がいれば、30歳代からの検診をおすすめします。代表的な症状は①便秘②血便③体重減少④貧血⑤謎の腹痛。予防には生活習慣が大きく関わり①過度の肥満にならない②飲酒しすぎない③適度の運動とともに食生活にも気を付けてください。



「がん医療の新たな一歩」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 副センター長
今村 善宣 先生



がんは遺伝子の異常によって発生する病気です。従来、がん治療は肺や大腸などの臓器ごとに開発されてきました。近年、がんの種類を問わず、遺伝子異常の情報に基づいて治療を行う「がんゲノム医療」がそれに加わりました。「がん遺伝子パネル検査」では、数十〜数百種類のがん関連遺伝子を一度に解析します。そうすることで初めて遺伝子異常が特定され、それに基づいた新たな治療オプションが見つけれられる場合があります。また、遺伝性腫瘍の発見にも役立ちます。結果が出るまで1.5〜2か月を要し、費用は56万円と高額ですが、保険診療で受けられるのは世界で日本だけです。

「がん医療の新たな一歩」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 副センター長
今村 善宣 先生

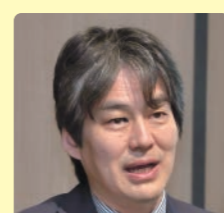
最新のがん医療 2

司会 富山大学附属病院 腫瘍内科・緩和ケア内科 教授
林 龍二 先生



「CAR-T療法」血液がんから固形がんへ
信州大学 医学部 小児医学 教授
中沢 洋三 先生

「CAR-T療法」は患者さんの免疫細胞・リンパ球を使って遺伝子治療をする最新の治療です。「再生医療等製品」という新しいジャンルの、患者さんの細胞を加工して力を強め、患者さんに戻す治療薬です。



「がん診療の新たな一歩」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 副センター長
今村 善宣 先生



「いつでもどこでも、切れ目のない緩和ケア」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教
児玉 麻衣子 先生

福井大学医学部附属病院緩和ケアチームは「病気をもちながらも住み慣れた地域でその人らしく暮らせるようサポート」をモットーに、入院患者へのケアや緩和ケア外来、在宅医療や訪問看護との連携、退院後訪問などを行っています。チームは医師、看護師、薬剤師、リハビリ技師、栄養士、医療ソーシャルワーカー、公認心理師で構成されており、「全人的苦痛」といわれるさまざまな苦しみ、各職種が専門性を生かし、チームで患者や家族を支えています。緩和ケアは、がんの診断と同時に始まります。早期からの緩和ケアで、患者や家族のQOLの向上、体や心のつらさの緩和などに加え、寿命が延びるといってデータもありません。手術、放射線、薬物に加え、緩和ケアは4本目の柱としてがん治療を支えています。



「いつでもどこでも、切れ目のない緩和ケア」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教
児玉 麻衣子 先生

「いつでもどこでも、切れ目のない緩和ケア」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教
児玉 麻衣子 先生

地域活動

司会 福井大学医学部看護学科 成人看護学 教授
磯見 智恵 先生



「がん患者の生きる意味へのサポート」
がんサロン「ロゴス」代表/石川県立看護大学 名誉教授
牧野 智恵 先生

現在、主に福井市の田原町コミュニティ内で、月2回のがんサロン「ロゴス」を開催しています。このサロンでは、私とピアサポーター、がん専門看護師らで、がん患者さんやそのご家族を支援する活動を行っています。

「いつでもどこでも、切れ目のない緩和ケア」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教
児玉 麻衣子 先生

「いつでもどこでも、切れ目のない緩和ケア」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教
児玉 麻衣子 先生

「いつでもどこでも、切れ目のない緩和ケア」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教
児玉 麻衣子 先生

「いつでもどこでも、切れ目のない緩和ケア」
福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター 特命助教
児玉 麻衣子 先生